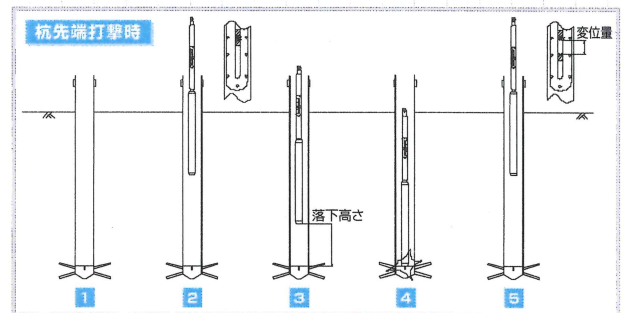
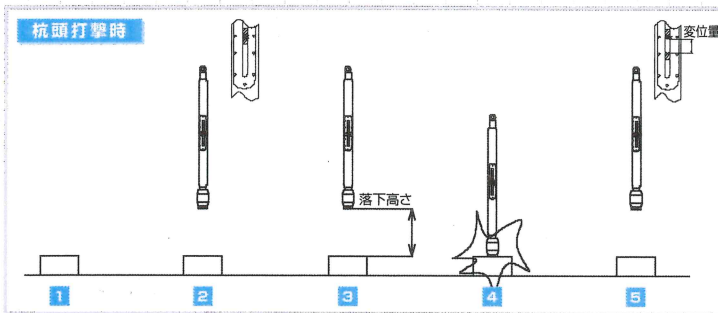


# スライドウエイトS試験 試験実施手順

重錘を取り付けた計測器を杭頭もしくは閉塞した先端に落させて測定する簡便な試験方法

## 実施手順

- 1 施工終了
- 2 測定器(モンケン付き)の目盛を基準点にセット
- 3 設定落下高さにセット
- 4 打撃
- 5 測定器を引き上げ最大変位量( $\delta_{max}$ )を読み取る
- 6 測定器の計測値 $\delta_{max} \geq \delta_c$ 、かつ、杭の1打撃による残留沈下量 $\leq 2\text{mm}$ となることを確認する。  
この条件が満足されるまで、2~5を繰り返す。



杭頭打撃用治具設置



重錘セット



落下高さ確認



打撃



杭頭直接打撃時の全体



変位量確認

沈下量(2mm以下確認)

当試験方法は、(財)日本建築総合試験所の  
建築技術性能証明を取得しています。  
GBRC 性能証明：第10-24号 平成23年2月15日

GBRC 性能証明 第 10-24 号

**建築技術性能証明書**

証明名称: スライドウエイトS試験-打撃による小口径鋼管杭の品質管理試験-

申請者: 株式会社ソイエス 代表取締役社長 山下 功治  
受取場所: 名古屋市港区藤前4丁目913番地  
(本証明の発給は、株式会社協会、システム計測株式会社と共同で行われたものである。)

技術概要: 本技術は、小口径鋼管杭(地盤補強材を含む)の支持力に関する品質管理試験法であり、施工後の杭に測定器を装着した直理を自由落下させて打撃を加え、測定器の定位置から杭に残留した最大変位量を測定するとともに、杭の残留沈下量を計測し、最大変位量と残留沈下量に基づいて支持力に関する品質管理を行うものである。

留意事項: 小規模建築物に採用される小口径鋼管杭については、地盤調査(スウェーデン式サウンディング試験など)の結果や、明確な支持力が保証されない地盤における打ち込み管理の信頼性の確保が重要である。施工した後の支持力と信頼性の確保の方法で設計する品質管理が重要と考えられる。本技術は、施工現場に現場で鋼管杭の支持力に関する品質管理を行うことを意図して開発したものであり、さらに、打撃を加えることで、地盤地盤の振動を低減することも意図している。

当財団の建築技術検証・証明事業実施要領に基づき、上記の性能証明対象技術の性能について、下記の通り証明する。

平成23年2月15日 財団法人 日本建築総合試験所  
理事長 文三

証明方法: 申請書より提出された下記の資料により性能証明を行った。  
資料①: 性能証明のための説明資料  
②: 実施マニュアル  
資料③は、本技術の性能評価の信頼性を確認した説明資料がまとめられている。  
資料④は、本技術の性能評価の手順書であり、打撃試験の設定方法、実施手順および品質管理が示されている。

証明内容: 申請者が提供する「スライドウエイトS試験 実施マニュアル」に従って小口径鋼管杭(地盤補強材を含む)を打撃した際に作用する最大打撃荷重は、測定器の定位置 $\delta_{max}$  によって適時に計測でき、この最大打撃荷重と打撃による杭の残留沈下量に基づく品質検査方法は、別の設計規格や支持力検査の規程に対する支持力性能を確認できると判断される。

■スライドウエイトに関するお問い合わせ先

**スライドウエイト協会**

〒455-0855 名古屋市港区藤前4丁目913番地  
TEL.052-304-1191 FAX.052-304-1195